

田中雅美さん 成長の裏側で見た一面 in タイ

日本人の旅行先としても人気が高いタイ。しかしその裏側には、知られざるさまざまな問題がある。9月中旬、その真実と向き合うため、スポーツコメンテーターの田中雅美さんがこの国を訪れた。

自然と共に生きる子どもたち

市

街地を駆け抜ける高架鉄道、目の前にそびえ立つ摩天楼。人々はおしゃれな服に身を包み、さつそうと通りを歩いている。1997年のアジア通貨危機を経てもなお、着実に発展を続けるタイの首都バンコク。東南アジア有数の大都会だ。

9月中旬、この国を訪れたのは「なんとかしなきや！プロジェクト」※著名人メンバの田中雅美さん。シドニーオリンピック・競泳女子400メートルメドレーリレーで銅メダルを獲得した彼女は、「応援してくださいって方々に恩返しをしたい」と、引退後は社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。「今だからこそ、東日本大震災で感じた世界とのつながりをきちんと学びたい」。そんな思いから、今回のタイへの



訪問が実現した。

田中さんが向かった先は、北部の街チェンライ。地元の小中学校に着くと子どもたちが一斉に駆け寄って来て笑顔で迎えてくれた。この学校は、公益財団法人オイスカが実施する「子供の森」計画の参加校。15年前から環境教育に取り組み、校内での植林をはじめ、近隣の山にもその活動を広げてきた。10年以上の歳月を経て成長した木々は、木陰を作り、生き物呼び戻し、人々に恵みをもたらす森へと成長を遂げていた。現在は地域ぐるみで森を整備し、火災から守るための訓練も実施中だ。子どもたちの案内で森の中に入り、



「森の恵み」の調理は女性たちの仕事。竹筒でのコメの炊き方を子どもたちに伝えていく

採れたての木の実やキノコなどを手渡された田中さん。その「森の恵み」を口にして「おいしい」と一言。田中さんの周りはいつも子どもたちでいっぱい。果物の名前や数の数え方を、タイ語で一生懸命教えている姿が印象的だった。

発展の陰の苦しみを取り除くために

チェンライに隣接するバヤオ県。ここで田中さんは、タイの発展の陰に潜む深刻な社会問題に直面する。それは人身取引。急速な経済成長に伴い、ヒト・モノ・カネの移動が活発化するタイ。しかしその陰では、国境を越えた人身取引が問題になっている。その被害は、性的搾取の対象とされる子どもや女性だけでなく、労働搾取の対象となる男性にも及んでいる。心に傷を負った人々が立ち直り、一日も早く社会復帰できるように。JICAは2009年から「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」を実施。その活動の一環として、バン



【上】バンコクYMCA/バヤオセンターのスタッフと、職業訓練の一環として制作した民芸品を見学
【下】ジャンティの現地副所長(左から2人目)と難民キャンプ内の家庭で話を聞いた

コクYMCABayaオセンターとも連携して、バヤオに帰還したタイ人女性の被害者の自立支援に取り組んでいる。「つらい体験に目を背けるのではなく、人身取引をなくするためにはどうしたらいいかをみんなで考えています」。バンコクYMCAバヤオセンターの現地スタッフの話に、田中さんは熱心に耳を傾ける。そして、性的搾取に遭った一人の女性に話を聞くことができた。「ふとしたきっかけで、いつ被害者になるかわからない。正しい知識を得て、自分で自分を守れるようにならないとダメです」。出国から帰国に至るまでの経緯、今置か

れている状況について詳しく話してくれた。この深く重い問題に対して何ができるのか。「すぐに答えを導き出すことはできないけれど、この事実を知り、伝えることが重要だと思います」と田中さんは話した。

難民キャンプの子どもたちに本を読む機会を

ミャンマーとの国境の町メーソットでは、約4万6000人が暮らすメーラ難民キャンプを訪れた。いつ祖国に帰れるかわからない。閉ざされた空間の中で生活するミャンマー難民のために、公益社団法人ジャンティ国際ボランティア会が図書館の運営を支援している。難民キャンプという過酷な環境の中でも、特に子どもたちには、さまざまな

本に触れることで将来の夢や目標を持つて生きてほしい。そんな地道な活動を日本のNGOが続けているのだ。水泳もオリンピッククも知らない子どもたちに、田中さんは「およぐ」という絵本の読み聞かせをする。ストーリーに合わせて、大きなジェスチャーで「およぐ」田中さん。その動きを見ながら、手足を懸命に動かす子どもたち。みんなのまなざしは真剣そのもの。新しいことを目いっぱい吸収しようとしているのが伝わってきた。



難民キャンプの子どもたちに絵本を紹介する田中さん。「キラキラした真つ々な目で、一生懸命に聞いてくれてうれしかったです」

今回の視察を通じて、「一人の人間ができることは限られているかもしれない。でも、小さなことでも発信し続けていけば、誰かが何かを感じ、また違った場で発信してくれるかもしれない」と感じたという田中さん。私たちができることは何か。それは「なんとかしなきや！プロジェクト」の大きなテーマでもある。田中さんはタイで得たさまざまな経験と出会いを胸に、すでにいろいろな場所へ発信を始めている。

※途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクト。実行委員会はNPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)、JICA、国連開発計画(UNDP)。

「私たちは自然に生かされ、森に生かされていることを実感しました」と田中さん。子どもたちと一緒に植林活動も行った